

ゼミ B 平成 25 年 9 月 15 日(日) 10:30 ~ 12:00

場所/記号		テーマ・講師	ゼミの内容等	ゼミ形式	備考
吉田	B1	測地学 —重力を測って地球を探る  風間 卓仁 (理学研究科助教)	「測地学」は、地球の大きさや形を測定する学問です。今回は、測地学の観測で一般的な重力測定を皆さんに体験してもらいます。地球が私たちを引きつける力「重力」が、場所によってどれくらい違うのかを確かめます。この体験を通して、観測の重要性や地球の大きさを実感してみましょう。	実験	保護者 参加型  ※C3と 同じ内容
吉田	B2	『どっちを選ぶ?』の仕組み ～細胞の決断から治療法の選択まで～  山田 亮 (医学研究科教授)	医療現場では、病気の治療法が複数あるとき、そのどちらかを選ばなくてはなりません。体を作っている細胞も、日々、選択をしています。選択にあたっては、いろいろな情報に基づいて次に何をするかを決定しています。ゼミでは、具体的な選択肢を選んでみるクイズを実施し、それを通じて、『情報を集めて選択をする』ことについて勉強します。	出席者 参加型 講義	保護者 参加型
吉田	B3	留学生と一緒に 世界の環境問題を考えよう  舟川 晋也 (地球環境学堂教授)	環境問題は私たちにとって国を越えた課題です。本ゼミではアジア・中南米からの留学生らが中心となり、海外（特に開発途上国）の環境問題や解決に向けた研究や実践を紹介します。教員と留学生を交えた小グループに分かれ、自由に質問や議論をしながら、世界の環境問題について考えましょう。留学生による発表や留学生との対話は日本語（もしくは通訳付き）で行います。	講義・ グループ ディスカッ ション	保護者 参加型  ※C5と 同じ内容
吉田	B4	新種発見とクニマス発見 —その科学的な方法—  中坊 徹次 (総合博物館教授)	数年前、高知県以布利漁港で採集したカマスの仲間が新種でした。このカマスは付近の家庭で食に供されていた魚だったので、これを新種であると結論付けた科学的な方法を述べ、クニマス発見の方法と重ね合わせます。用いた研究方法は同じなのです。	講義	保護者 参加型
吉田	B5	結果を出す正統派の英語学習： 発話重視による極限の効率追求  青谷 正妥 (国際交流センター准教授)	発話・聴解先行の英語学習の正当性と訓練の実際を、応用言語学と脳科学を駆使して解説。自ら結果を出した講師（理学・教育学博士、TOEFL/TOEIC 満点）が、近代科学が解明した英語力の本質と学習戦略を京都大学での講義に基づき詳説。効果・効率追求のための仁義なき戦いを描く濃密な講義。壇蜜とは違った意味で！	講義	保護者 参加型
吉田	B6	1985年メキシコ地震 —長周期地震で建物はどう揺れる？  佐藤 裕一 (工学研究科助教)	1985年のメキシコ地震は、ゆっくりと揺れる長周期の震動で15階建て程度の建物が壊れました。このゼミでは建物が壊れる様子のコンピューターシミュレーションを見ながら、長周期地震の恐ろしさを学びます。	講義・ 一部実験	保護者 参加型

場所/記号		テーマ・講師	ゼミの内容等	ゼミ形式	備考
吉田	B7	<b>哲学</b> <b>—自由について自由に話そう</b>  <b>安部 浩</b> (人間・環境学研究科准教授)	「自由」とは何を意味するのだろうか。みなさんの中には、この言葉が明治以降、英語ならば「freedom」の語の和訳として用いられるようになったということをお聞きの方がおられるかもしれない。だが少し考えてみれば解るのだが、「自由」と「freedom」には見逃せないニュアンスの相違もある。そこで再び問おう—「自由」とは何を意味するのだろうか。自由について考えるところをお互いに自由に話そう。	講義	保護者 参観型
宇治	B8	<b>植物バイオマスの改変</b> <b>～メタボの制御？～</b>  <b>梅澤 俊明</b> (生存圏研究所教授)	植物バイオマスは世界の陸上バイオマスの大部分を占めており、その持続的な生産と利用は今後人類が生存をし続けるうえで大変重要になっています。今回のゼミでは植物バイオマスの種類や利用について解説するとともに、植物バイオマスを今後使い続けるうえで重要な技術、特に遺伝子組換え技術などについて解説します。	講義	保護者 参加型
宇治	B9	<b>樹木を支えるナノファイバーについて</b>  <b>阿部 賢太郎</b> (生存圏研究所助教)	樹木の巨大な体は、その内部にある幅数nmの鋼鉄よりも強い繊維「セルロース」によって支えられています。現在、この繊維（セルロースナノファイバー）を使った優れた材料開発が進められており、私たちの生活をも支えようとしています。セルロースナノファイバーとはいったい何なのか、その秘密に迫ります。	講義・ 簡単な実験	保護者 参加型
吉田	Y1	<b>英語を学ぶことの大切さと その受容の歴史</b>  人間・環境学研究科 共生人間学専攻ゼミ	なぜ英語を学ぶことが大切なのか。日本人は如何にして英語を受容したのか。本講義では、先人の英語に対する態度と、その学習方法を知ることで、自らの学習態度を問い直し、英語を学ぶことの意義を再認することを目的とする。新渡戸稲造や斎藤秀三郎のような英語達人の学習方法を学ぶことで、生徒諸氏の英語学習に対する意欲が向上することを望む。	講義	保護者 参観型

若手研究者  
特別ゼミ

